

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471500304
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原
訪問調査日	2017年8月28日
評価確定日	2017年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471500304	事業の開始年月日	平成15年11月1日	
		指定年月日	平成27年11月1日	
法人名	社会福祉法人 誠幸会			
事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原			
所在地	(250-0631)			
	神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1285-368			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成29年7月31日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心を込めたサービスを提供し、関わる全ての人への安全と安心を追求します。利用者様へのより良いサービスの提供には、職員の安定や結束力が欠かせないと思っています。現在平均介護度4.5と職員への負担も大きくなり、職員への負担軽減にも工夫を凝らしています。また今年度の事業目標の一つに「重度化」の言葉を使わないと決め、日々あきらめない介助に奮闘しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成29年8月28日	評価機関 評価決定日	平成29年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、社会福祉法人誠幸会の経営です。同法人は、横浜市泉区に本部をおき、横浜市内を中心に「高齢者介護・障がい者支援・保育」を3本の柱として、様々な福祉サービスを展開しています。グループホームは、ここ「泉の郷 仙石原」を含めて神奈川県で5か所を運営しています。泉の郷仙石原は、元々保養所だった施設を改修した1ユニットの事業所で、入浴で使うお湯には温泉を使用し、周囲は箱根の山々に囲まれ、四季折々の自然を望むことができるなど、土地柄を最大限に活かされた事業所です。「小田原駅」からバスで50分程乗り「小塚入口」下車して徒歩5分程の場所に位置しています。

●事業所では、法人の理念「かかわる全ての人々が喜び地域社会の中で価値ある総合福祉法人を目指す」とは別に、職員全員で話し合って作成した目標に「重度化」の言葉を使わないを掲げています。ケアをするうえで、重度化を理由にせず心のこもったケアで、日々あきらめないケアの実践に努めています。また、利用者の平均介護度が上がり、職員への負担も大きくなってきていることから、管理者は職員の負担軽減を少しでも緩和できるように、週5日は弁当と惣菜を発注してお皿に盛りつけるようにし、2日は手作りの料理を提供することで、食事作りにかかっていた時間を短縮して利用者に関わる時間を増やす予定です。

●職員の教育については、法人本部での定期的研修が企画され必要に応じて参加させていますが、距離的、人力的な問題で、参加出来る回数に限りがある為、毎月の職員会議の中で定期的に研修を行っています。研修では、テーマを決めて管理者やユニットリーダーが講師をとなり、様々なテーマで実施し、本部に報告書を提出しています。職員の在籍年数が長い職員も多く、全職員が同じ目標を持ちながら、統一したケアの実践に努めています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原
ユニット名	同上

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より「かかわる全ての人々が喜び地域社会の中で価値ある総合福祉法人を目指す」と見直されています。基本理念に追随し「行動規範」も示され、6つの規範を守る事により基本理念を尊重し、社会貢献に努めています。	今年度は「関わる全ての人々が喜び地域社会の中で価値ある総合福祉法人を目指す」を法人の理念としています。法人の理念、運営方針、6つの行動規範をフロアと事務所内に掲示し、朝礼時には行動規範を唱和しています。事業所独自の目標を全職員で話し合っって作成し、今年度は「重度化」を理由にせず心のこもったケアで、日々あきらめないケアの実践に努めています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の世帯も減少を続ける中、自治会の常会や月1回の清掃には必ず参加をさせて頂いています。日常的にも挨拶を欠かさない事を心掛けています。	小塚地区の自治会に加入しています。以前は地域の役員を引き受けていましたが、現在は自治会のメンバーとして年3回常会に参加しています。町内としての活動はあまりありませんが、月1回の清掃活動や事業所の納涼祭には民生委員や自治会の方にも参加いただいています。また、隣の別法人の特別養護老人ホームとは健康診断を受診させていただく等、良好な関係を構築できています。社協を通じて傾聴ボランティアの方にも訪問に来ていただいています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献は大きな課題の1つになっています。箱根町の高齢化率も進む中、土地柄まだまだ家族は認知症の人を隠す傾向にあると思います。今後は真剣に事業所の力を活かした地域貢献に努めなければいけないと考えます。	/		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議と誕生会や納涼祭などのイベントを合わせた日程を組み、出来るだけ参加者を募るようにしています。皆様からの意見や要望では、職員では考えも及ばない貴重な意見要望も頂き、実践・結果を報告しサービス向上に努めています。	運営推進会議は多くの方に参加いただけるように、イベントと併せて開催しています。箱根町役場職員、社協、民生員、自治会役員、家族の参加で事業所の現状報告や勉強会を行っています。民生委員や自治会の方からも様々な意見等も頂けるので、運営に反映させ、サービスの向上に努めています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回の介護保険連絡会には欠かさず参加をさせて頂いています。施設でのイベント等の案内もさせて頂き、実際にグループホームの中を見ていただき、意見交換できるよう取り組んでいます。	年4回開催されている箱根町主催の介護保険連絡会には欠かさず毎回出席して、行政とからの情報収集や他法人の事業所との情報交換を行っています。担当者とは書類の提出や申請手続きの関係で窓口に向いたり、生活保護受給者の受け入れを行っている関係でも必要に応じて連絡を取り合っています。箱根町では、今年から毎年実地指導が行われることになりました。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠含め、身体拘束は行われていません。身体拘束の必要性がある場合は、違う方法に置き換える工夫をしています。しかし言葉には注意が必要で、気がつかないうちに身体拘束にあたるのではないかと言葉を耳にすることもあり、研修の一つに取り入れています。	身体拘束や虐待については年2回研修を行い、禁止行為と言葉遣いについて正しい理解を身につけています。現在はいませんが、身体拘束の必要性がある場合には、職員間で話し合い代替え案を検討して対応するようにしています。不適切な声かけや対応が見受けられた場合には、その場で注意しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、年2回研修を取り入れています。内容的には心理的虐待が主になりますが、言葉には十分注意を払う必要があると思っています。またその場での注意を心掛けていますが、今年は残念ながら不適切ケアで退職者を出してしまいました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や一部の職員は成年後見人様との相談や話の中で様々な学ぶ機会がありますが、今後は今以上に日常生活自立支援や成年後見人制度を利用される方が増える事を考えると、すべての職員に制度を学ぶ機会を増やさなくてはならないと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては先を見越した説明も交え説明・納得をしていただき、利用者様の不安等も引き出す努力をしています。しかし今年度初めも契約書や重要事項説明書が改訂され、今後は毎年不具合部分の改訂を行うことから、自身への書面の理解を深めなければいけないと思っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様や利用者様には日ごろから意見や不満等を引き出さなければ、いずれ大きな苦情となると考えています。意見要望等は面会時のアンケートや話の中、また運営推進会議案内状では欠席者にも意見要望を記入していただき、会議で皆様の意見を聞き運営に役立てています。	家族からの意見は面会時や運営推進会議、年1回の納涼祭で意見を聞く機会を設けています。面会に来られた際には独自のアンケートを家族に配布する等して、意見の収集に努めています。玄関とリビングには苦情相談窓口を掲示し、苦情連絡先を明確にしています。面会時の対応を管理者、ケアマネージャーにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低、毎月1回は職員会議で職員の意見を聞かせていただいています。また今年度は歩人本部の上司も招き、職員との懇親会も取り入れています。懇親会では法人上司に直に意見や提案ができ、モチベーションアップにも繋がっています。	毎月の職員会議で職員から意見や要望を聞き、その場で改善出来ることについては、業務改善に繋がっています。今年は、人事考課やキャリアアップ制度の見直しも行われ、職員のモチベーションアップにも繋がっています。また、年2回開催している懇親会では、職員間同士の親睦を深めるだけでなく、本部からも上層部の職員が来て、意見や提案を話す機会も設けるなど、働きやすい環境作りに努めています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自に役割を持って勤務していただいています。昨年12月から今年1月にかけて施設の各不具合場所も大規模に整備していただきました。給料面でも今年度は今まで以上にアップしているかと思えます。しかしながら職員不足から勤務時間の延長が課題になっています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部内部研修・外部研修・自事業所内部研修と研修の場は多く提供されています。上司からは外部研修は特に研修内容も当然大事ですが、研修に参加することで多くの人との繋がりを持つよう研修参加を進められています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	年4回の介護保険連絡会には必ず参加をさせていただき、各事業の方々との交流を深めています。また地域密着の運営推進会議では、各事業所の方々が行き来をし、サービス向上に大きく役立っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等を頭に置き、やはり傾聴に重点を置き、その方に適した声かけで支援を行わせていただいています。このあたりまえが守れば自ずと信頼関係ができ、ご本人の安心にもつながると考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランを通しご家族様からの要望や相談を受けています。ご家族様との関係は、良い話だけでは信頼関係を築けなく、現実や先の話も織り込みながら親身に話すよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今ご本人様がどこでどう暮らすのがご本人の為になるのか常に考え、ご本人・ご家族共に困りグループホームでの生活を選んで頂いた以上、最善の方法を常に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する者、介護される者・友達関係でもなく、分かり合える関係を目指しています。その方の話を傾聴し、ごまかしでない話・声かけを心がけています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の職員不足のカバーも含め、ご家族様にも協力を呼び掛けています。ご家族の面会では、普段職員の見る入居者様と違った面も多くみられ、やはり家族だなと思うこともあります。ご家族には行事等にも参加をしていただき、皆でよい関係が築ければと考えます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や通院等は極力、家族をお願いをしています。外出では自宅に寄るなどをお願いしていますが、現実的に難しいところもあり、家族の理解が必要と考えています。家族対応の難しい場合は、本人の希望で選挙などにも同行をしています。	もともと地元の入居者が多く、友人の訪問、手紙や年賀状が来る方もいます。馴染みの場所へ出かける際は、家族をお願いして、選挙の投票、自宅に行くなど、家族の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないよう支援しています。事業所での行事の際にはキーパソンの方に案内状を出し、友人の方にも声をかけてもらうようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲームなどができなくとも、歌・音楽は利用者同士を1つにしてくれています。当然ながら職員の橋渡しも必要な場合も多々ありますが、利用者同士のコミュニケーションが少しでも取れるよう努力しています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現実的には、グループホームを何らかの事情で退居されても、当施設に住所を置かれている方もいらっしゃいます。すると郵便物も届き、結果繋がりが続く場合があります。先日は訃報が届き、成年後見人と私の2名のみの葬儀もありました。			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	画一的なケアではなく、利用者一人ひとり歩んできた歴史や生活スタイルも違うので、本人や家族より多くの情報を得ながら、個別化を図るようにしている。	利用者一人ひとりの生活歴があり、生活スタイルも違うので、画一的なケアではなく、その人に合ったケアを心掛けています。入居時のアセスメントで得られた情報を基に、日々の関わりの中から意向の把握に努め、個人記録や気づきの報告書に記録し情報を共有しています。思いや意向については、出来る範囲で叶えられるよう努め、その方にとって充実した暮らしが出来るように支援しています。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から趣味や得意とすること等情報を得ながら、居心地のいい環境づくりやいつまでも馴染みの暮らしが出来るように持ち物等で居住環境を整えるように配慮している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活がその人にとって充実し、満足のできる一日になる様にやりたい事や出来ることへの拡大を図りながら、ともに楽しむ生活づくりができるようにケアプランにも繁栄しております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのチェック表やケアカンファレンス等で状況の変化に応じた個別性に配慮した目標提示がされているか話し合いをしながら再確認をしております。	ケアプランチェック表を基に、毎月のケアカンファレンスで利用者全員分のケアプランの実施状況について確認しています。ケアプランの見直しは、現状のケアプラン、気づきの報告書を基にカンファレンスを行っています。ケアプランチェック表には、ケア目標と、日常動作のチェック項目が一覧で記載されており、利用者の状況の変化やADLに即した介護計画を作成しています。介護計画の見直しについては、短期は3ヶ月、長期は6ヶ月の見直しとしています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に気づきの報告書をあげ、それに基づきケアカンファレンスしながら状況の変化に対応、見直しをしているとともにケアプランチェック表でも介護計画の見直しに役立てております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大きな状況の変化や問題が生じた時は、会議を開催して家族の意向や状況等を話し合い、常に個別性に配慮できるように細やかに取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしが出来るように個人の持っている生活技術を活用するとともに心身の力を発揮できるように、すこしでも可能性を引き出す生活づくりの支援をしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との信頼関係には、先生を立てつつ様々な相談にも応えていただいています。また、訪問歯科や訪問看護との橋渡しも記録に残し努力しています。入居者様の中には協力医の往診を断られる方もいますが、ご本人や家族の希望にも最大限応えられるようにしています。	入居時にかかりつけ医の有無を確認し、現在は1名の方を除いて、事業所の協力医をかかりつけ医として受診されている方がほとんどです。内科医の往診は月8回、訪問看護師は週1回来て、利用者の健康管理にきています。訪問歯科は週1回の往診があり、口腔ケアと受診が受けられるようになっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との報・連・相もやはり記録を残し、職員間で共有できるようにしています。また、看護師からの目線と介護職員の目線の違いなど、お互いに知識を深めあうことができているかと思えます。また訪問看護師と職員で、年2回の会議の時間を持っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者とは営業も兼ね、常に関係づくりに努めています。入院に関しては入居者様が、今どこで治療やリハビリを受けるのが相応しいか、常に考えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りを行うことができないため、入居前からご本人やご家族様には重度化や終末期に関しては、十分な説明を行っています。また、入居者様が今どこで生活を送ることが相応しいか、ご家族様には伝えていきます。	事業所では看取りは行っていない為、契約時に重度化した場合や終末期の対応について説明し、同意書を取り交わしています。医師の往診時に重度化が予測されるとの話があった際には、家族と話し合いの場を設け、特養や病院等への異動も視野に入れて対応しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応に関しては法人内での研修にも盛り込んであります。主治医からも各入居者様であり得る急変や注意もいただき対応できるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、町とも協議し災害マニュアルを作成してあります。町内会も含め食料備蓄も当然ながらしてありますが、入居者様の薬についても10日間程度の余裕を持たせています。また、当施設は箱根町との契約で箱根町災害緊急避難場所に指定されています。	年2回の防災訓練を実施しています。防災設備業者立会いの下、水消火器を使用した消火訓練も実施しています。また、年1回は、地域の防災訓練にも職員が参加しています。箱根町からも介護の必要な方の避難場所としても指定されている他、箱根町と協議しながら災害マニュアルも作成しています。備蓄については、1週間分の水、食料の他、衛生用品や薬も多めに準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりとの信頼関係を築きながらも、とり巻く状況や行動をよく理解して、今その人に合った言葉かけをするように努めております。	トイレ、入浴介助時の声かけや扉の開扉については特に注意し、声の大きさや他の人の視界に入らないよう留意しながら支援しています。また、法人の行動規範の中にも、「入居者の権利を守ります」と掲げられており、法人・事業所内研修でも年2回取りあげて行っています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりその人に合ったコミュニケーション方法を取り入れながら、話題の中でも自己決定が出来るように支援しております。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の状況や様子を見ながら、その人が望むことへの支援と一人ひとりに合ったペースを大切にしながら過して頂いています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じたご自身の希望に合った服装を選んで頂き、身だしなみや清潔にも気をつけております。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様で作り上げた食事をご自身の力で常食で味わい楽しい食卓を作りたいと思いますが、最近では食事形態も変わり、職員不足からも以前に比べ食事の質が低下していると感じています。食事に関しては大きな課題と受け止め改善を試みる努力をしています。	食材は生協の配達を利用し、メニューは自前で考え調理しています。現状では、職員で外出に出かけたりすることが難しいので、家族にも協力を得ながら、家族対応で夕食をお願いしています。利用者の平均介護度が上がり、職員の負担軽減を少しでも緩和できるように、9月から、週5日は弁当と惣菜を発注してお皿に盛りつけ、2日は手作りの料理を提供することで、調理の時間を利用者へのケアに充てる予定です。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全量召上がって頂くように声かけを多くしながらも無理強くないで見守る様にしております。また偏りのないように栄養士や看護師からも意見を聞き、メニューの工夫もしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科のドクターや歯科衛生士からの助言を頂き、口腔内の衛生、ケアに努めております。歯ブラシや義歯ブラシなどは訪問歯科で用意、管理して頂いております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り、リハパンやオムツを使用しない自然体で過ごせるように排泄リズム表を確認しながら、トイレにお誘いして、自立排泄を促しております。またパット使用者であってもひとり一人の排泄リズムを見ながらトイレへの誘導を行ない、排泄をうながしております。	日中はトイレでの排泄を心がけ、パット使用者であっても一人ひとりの排泄リズムや仕草を確認してトイレへの誘導を行ない、トイレでの排泄を促しています。事業所の方針としてトイレ誘導、トイレでの自立排泄を目標に取り組んでおり、排泄のパターンを把握し時間を決めて誘導を続けています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動は難しくなっていますが、それぞれで出来る動きは行っていただいています。食品では、その方々に合ったオリゴ糖や牛乳、ヨーグルト・オリーブオイルなどを使っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様によっては、男性職員の介助が必要となることもあり、職員の都合での入浴が決められることもあります。しかし本年1月にユニットバスも新調し手摺の位置などを見直しています。またシャワーチェアも購入し安全な入浴に努めています。	この事業所の特色の一つは「温泉」です。週2回の入浴を基本としていますが、時間帯や曜日等は本人の希望に応じて、柔軟に対応しています。リフトも完備されており、重度化の方でも対応できる設備が整っています。また、季節のしょうぶ湯や柚子湯なども実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前は皆さんでレクをとの考えが強かったかと思いますが、現在は個々のペースを尊重しつつ生活を送れるようお手伝いをさせていただいています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、まずは誤薬について責任の重さを理解してもらっています。常に1年から2年ごとに2名の薬担当者の役割を持ってもらい、主治医の指示連携に正確に応えられていると思います。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季を感じていただき、時には非日常的なイベントを常に考えていますが役割の面では難しくなっています。気分転換に関しては、外部からの提案も参考にさせていただき、テラスを活用し温泉での足湯や、女性にはフェイスパックが好評になっています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関しては家族の協力が出かけることが出来ています。しかし、それも一部の方々に、まだ皆様に満足のいく支援が出来ていないと反省をしています。「外出は無理だね」という固定観念を変えていく必要がまだまだあると考えています。	現在は利用者全員が、車椅子と言うこともあり、全員での外出支援が難しくなっていますが、家族の協力も得ながら、個別対応での外出支援を行っています。テラスで栽培している、野菜の収穫を行ったり、外気浴やお茶を飲んだりしながら過ごしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在一名の入居者様が金銭を所持し、外出の際の買い物や通販を利用しています。高価な通販も利用することもあり、支援は欠かせないと思っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは難しくなっていますが、届いた手紙は、その方に読んで差し上げています。その上でも電話でのやり取りには支援をさせていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは常に清掃や消毒を実施し居心地の良いスペースをと心がけています。掲示物も四季を通し変更し感じ取っていただくよう努力しています。またテラスでは気軽に外気浴もでき、家庭菜園を行い、皆様にも土を触って頂いています。課題は安全のためにも整理整頓が維持出来ないことにあります。	建物は元保養所だったということもあり、玄関ホール、食堂、居室、リビング、どのスペースも広くゆとりを持たせた造りになっています。リビングの照明をLEDに切り変えるなど、明るさにも配慮し、壁には手摺りも取り付けられ、車椅子同士でもすれ違えるよう整理整頓を心がけています。季節の装飾を施し、リビングのテラスからも四季折々の自然の移り変わりを見ることができるので、室内からも季節感を感じられる空間になっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	午前中は皆様定席で過ごされることが多いと思います。午後は思い思いに昼寝などをされるため、職員が橋渡しをし残られた皆様でテーブルを囲み思い思いのお話をされることもあります。新聞やテレビの好きな方は、テレビ前で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはすべての物を自宅から持参していただいておりますが、今年度は家族にも相談をさせていただき、全室電動ベッドに入れ替えをさせていただきました。それぞれの居室には誕生会で作った入居者様の名前・生年月日・年齢の書かれた絵を張らせていただいております。	エアコンとクローゼットは備え付けられていますが、基本的には本人の使い慣れた家具等を持ち込んでいただくように話しています。本人が落ち着いて、居心地よく過ごせる空間作りを心がけ、清掃は居室担当者が主となって行っています。また、家族の来訪時には相談し、レイアウト等も含め意向に沿った空間作りに努めています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者皆様それぞれの出来る事の発見をカンファでも話し合い、出来ないことへのお手伝いをさせていただいております。今入居者様が何を求めているのか、「できることは自分でやってください」と勘違いしないことが大切だと思います。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
泉の郷 仙石原

作成日

平成30年8月28日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。